

令和2年度

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

所報



目 次

- (1) 教育事業等一覧及び事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- (2) 利用状況（利用者数）について・・・・・・・・・・・・P 2 1
- (3) ボランティア活動等について・・・・・・・・・・・・P 2 3
- (4) 運営費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 4
- (5) 当施設に関する記事の掲載について・・・・・・・・・・P 2 5
- (6) 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」について・・・・P 2 8



令和2年度 事業等計画一覧表

国立岩手山青少年交流の家

1 教育事業

No	事業名	継続年数	事業の目的	目的を達成するための活動プログラム等具体的な手立て(最大3つ程度)	期 間 (令和2年度の期間)	対 象	募集人数(人)	参加人数(人)	備 考
1	指導者養成研修事業 How To ボランティア ～ボランティア活動の基本を学ぼう～ NEAL養成研修会	15	青少年教育におけるボランティア活動に対する知識や理論を学ぶとともに、野外炊事やレクリエーション等の実習を通して、ボランティア活動の基本を学ぶ。	・講義 ・演習 ほか	5.23(土)～5.24(日) <1泊2日> 日程変更 +6.20(土)～21(日)	高校生以上の青年	50	37	盛岡大学 岩手大学 岩手県立大学
2	指導者養成研修事業 自然体験活動指導者養成事業 (NEAL養成事業)	5	自然体験スキルを習得することで、NEALリーダーとして必要な知識・技術を身につける。	・講義 ・演習 ほか	①5.23(土)～5.24(日) <1泊2日> ②7.4(土)～7.5(日) <1泊2日>	満18歳以上の青年	20	9	
3	指導者養成研修事業 体験活動支援セミナー	15	体験活動に必要な知識や、体験活動の支援の仕方について学ぶ。	・講義 ・演習 ほか	6.20(土) 中止	高校生以上の青年	50		盛岡大学 岩手大学 岩手県立大学
4	指導者養成研修事業 教員免許状更新講習 ①体験活動プログラムによる人間関係づくり ②安全に配慮した自然体験活動の実践	12	自然体験活動実施上の安全面について、人間関係づくりの手法について、講義と演習により体験的に学習する。	・講義 ・演習 ・実習	①7.27(月) ②7.28(火)	幼・小学校教諭等 養護教諭	①30 ②60	①29 ②60	岩手大学 (教員免許状更新講習連絡協議会)
5	普及啓発事業 テンパークまつり2020	13	岩手山青少年交流の家を広く地域に開放し、様々な活動プログラム等を通して、施設の利用と理解の促進を図る。	・活動プログラム体験 ・イベント(ステージ発表、創作体験ほか)	9.27(日) 中止	一般	1500		
6	看板事業 タートルズキャンプ ～集友支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～	11	被虐待等により社会的養護が必要な子どもに対し、自然体験活動や集団宿泊体験等を通してコミュニケーション能力向上を図り、それぞれの目標に向けてやり直し、自分に自信を付ける機会とする。	・野外炊事 ・テント泊 ほか	10.3(土)～10.4(日) <1泊2日> 通年(随時) 中止	施設入所児童	12		児童養護施設みちのくみどり学園 児童心理治療施設ことりさわ学園 児童養護施設和光学園 児童養護施設青雲荘
7	普及啓発事業 岡崎建設O1sプレゼンツ 「新たな発見!!チームづくり 基本のき」	2	直接体験の重要性や様々な人との交流の大切さを広く普及啓発するとともに、バレーボールの普及を図る。	・バレーボール教室	11.7(土)～11.8(日) <1泊2日> みちのく事業に変更	バレーボールをしている男子中学生	60	48	岡崎建設
8	普及啓発事業 テンパークちやれんじくらぶ	13	小学生が季節に応じた様々な体験活動を通じ、友達との関係づくりを深めながら、自然に対する親和的な態度を育成する。	・体験活動 ・創作活動 ・交流活動 ほか	11.21(土)～11.22(日) <1泊2日>	小学校3～6年生	50	50	盛岡大学 岩手大学 岩手県立大学
9	地域力向上事業 えいごdeクリスマス ～はじめの一歩～	2	外国人に接することのできる活動をおして、外国人や多文化に親しむ。	・クリスマスにちなんだ体験活動 ・英語でのコミュニケーション ほか	12.5(土)～12.6(日) <1泊2日> 中止	小学校3・4年生	80		
10	地域力向上事業 子供の貧困対策事業「生活・自立支援キャンプ めんこいキャンプ	2	困難な環境にある児童養護施設の子どもたちに対し、自然体験活動や集団宿泊体験等を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、それぞれの目標に向けてやり直し、自分に自信をつける機会とする。	・冬の自然体験活動	2.6(土)～2.7(日) <1泊2日>	児童養護施設藤の園入所児童	20	29	社会福祉法人ふじの園 児童養護施設一園藤の園
11	普及啓発事業 雪遊びinテンパーク ～集まれ!雪大好き少女!～	1	雪遊びや雪合戦の体験や交流活動をおして、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育む機会とする。	・スポーツ雪合戦 ・雪遊び ・雪山登山 ほか	2.20(土)～2.21(日) <1泊2日> 中止	小学校4年生以上	15		登山指導員
12	指導者養成研修事業 ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト (全6回)	6	ボランティアがチームを組んで事業の企画立案をすることで、ボランティアのスキルアップを図り、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。	・講義、講話 ・演習 ほか	①4月7日(火) ②5月17日(日) ③6月14日(日) ④10月11日(日) ⑤11月15日(日) ⑥12月13日(日) ⑦3月6日(土)～7日(日)	法人ボランティア	各回20名	各回10名前後	盛岡大学 岩手大学 岩手県立大学
13	地域力向上事業 賢治の学校 ①小岩井農場物語 ～賢治の見た風景を辿る～ ②盛岡高等農林学校物語 ～賢治の学びを辿る～ ③滝沢物語 ～石く賢治の歩いた道を辿る～	1	岩手の偉人である宮澤賢治の青年時代を辿り、賢治の作品の中に登場する歴史的史跡や景勝地を見聞する活動や体験活動を通して、豊かな心情や自然への畏敬の念を育む機会とする。	①小岩井農場資料館見学と絵手紙制作 小岩井農場重要文化財・猿森見学 曲り家で賢治の物語み聞かせ 化物工場見学・農場跡跡見学 ②鉱物薄片観察、博物館見学、植物園見学 岩手大学御明神演習林で農業・畜産体験 藤倉邸(南部曲り家)で手打ちそばとサイダーの昼食 鉱物薄片観察、賢治詩碑巡り	①5.30(土)～5.31(日) <1泊2日> テンパーク泊 日程変更 +10.30(土)～11.1(日) ②9.5(土)～9.6(日) <1泊2日> 中止 ③10.17(土)～10.18(日) <1泊2日> テンパーク泊	①全国の大人 ②全国の親子 ③全国の親子	①20名 ②15組30名 ③10組20名	①6名 ②11名	(株)小岩井農場 磐石と宮澤賢治を語る会 岩手大学 イーハートヴ団 栗田
14	地域力向上事業 全国高校生体験活動顕彰制度「探究アワード」 発見☆体験!!イーハートヴ・ストーリー	1	高校生が課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。	・高校の「総合的な探究の時間」の学習	5月～2月 *7月に合宿あり	岩手県立磐石高等学校第1学年	21名	21名	いわてNPO-NEETサポート磐石町政策推進課 NPOまちサボ磐石

2 職員研修事業

No	事業名	継続年数	事業の目的	目的を達成するための活動プログラム等具体的な手立て(最大3つ程度)	期 間	対 象	募集人数(人)		
1	岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会	24	岩手県内青少年集団宿泊教育施設の課題共有及び望ましい施設運営の充実と発展の方策を研究協議する。	・基調講演 ・分科会 ・体験活動 ほか	11.12(木)～11.13(金) <1泊2日> 中止	岩手県内青少年 県南青少年の家 施設関係職員	40		

- 1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
How To ボランティア ～ボランティア活動の基本を学ぼう～
兼「NEAL自然体験活動指導者（リーダー）養成研修」

2 趣 旨

「How To ボランティア～ボランティア活動の基本を学ぼう～」

講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

「NEAL 自然体験活動者（リーダー）養成研修」

専門的な講師の指導の下、自然体験スキルを習得することで、ボランティアに必要な資質・能力を高めるとともに、NEAL リーダーとして必要な知識・技術を身につける。

- 3 期 日 令和2年6月20日（土）～6月21日（日）

- 4 参加者 ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生 57名
（高校生46名 大学生10名 一般1名）

- 5 後 援 岩手県教育委員会

6 内 容

(1) 日 程

6月20日（土）

9:00	9:15	9:30	11:00	11:30	12:00	13:00	14:30	14:45	19:15	19:30	20:30	21:30	22:30
受付	開 会 行 事	青少年教育施設の 現状と運営	NEAL 概論 I	写 真 撮 影	昼 食 ・ 休 憩	ボランティア活動 の意義	移 動	ボランティア活動の技術 課題解決型野外炊事	移 動	法人ボラン ティア制 度と登録 について	青少年教育施設 における ボランティア活動	入浴・休憩	就 寝

6月21日（日）

6:30	7:00	7:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00	15:30	
起 床	洗 面 ・ 清 掃	朝 の つ ど い	朝 食 ・ 休 憩	安全管理 ・救急救命法 ・熱中症予防対策	昼 食 ・ 休 憩	青少年教育と 体験活動	ア ン ケ ー ト 記 入	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

東北学院大学地域連携センター 特任准教授
株式会社大塚製薬工場
国立岩手山青少年交流の家 所長
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職付
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
指導補助

渡邊 圭 氏
盛越 琢朗 氏
小野 保
鈴木 茂
杉本 守
日比野 功宜
小笠原 洋介
中島 理佐
法人ボランティア

(3) 企画のポイント

ボランティア活動に興味関心をもつ高校生・大学生が、ボランティア活動の基本について、講義・演習をとおして学び、ボランティアとして活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身に付けるため、事業のプログラム構成に当たっては、主体的に取り組める体験プログラムの提供を意識した。また、ボランティア活動体験があり、幅広い見識をもつ講師を招聘した。NEAL リーダー養成研修として、ボランティア活動とともに自然体験活動への興味・関心が広がるようなガイダンスとした。

(4) 広報のポイント

青森、秋田、岩手の三県の大学と岩手県内の高等学校には、チラシを配布する広報を行った。ま

た、施設のホームページにおいて、申込フォームを設け、インターネット上から申し込めるようにした。その他には、例年、直接近隣の大学に赴き、説明会の場を設けていたが、新型コロナウイルスの影響もあり今回は実施が出来なかった。代替案として、盛岡大学の学生ポータルサイトに説明会の動画を掲載してもらったり、岩手県立大学では、本事業の指導者である東北学院大学地域連携センターの渡邊圭特任研究員が非常勤講師として教鞭をとる講義「地域社会とボランティア」の中で、本事業と法人ボランティアについて取り上げていただいたりし、周知を図った。

(5) 運営のポイント

講義の講師として、ボランティアについての造詣が深く、経験豊かな東北福祉大学地域連携センターの渡邊氏を招聘した。主体的に意見交換をしながら活動できるよう、意図的・計画的にグループ協議の場を設けた。また、参加者の緊張感を解き、安心して研修に参加できるように、アイスブレイクを講義の初めに行った。「ボランティア活動の技術」では、野外活動を安全に行うための知識を学び、活動中も安全管理を意識させた。さらに、班の交流を深めることができるように、解決型野外炊事「カレーコンテスト」を実施した。法人ボランティアを中心に運営し、松ぼっくり拾いで隠し味の食材を選ぶ競技性を持ったゲームを組み込み、工夫して隠し味をカレーに入れ、職員の審査によるコンテストを実施した。「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、今後のボランティア活動に見通しがもてるように、岩手山青少年交流の家で行われている事業を紹介した。法人ボランティアも、先輩としてのやりがいを感じ、自己肯定感が高まるように、本部付きのスタッフではなく、参加者から一番近くの立ち位置で交流ができるよう、班付きのリーダーとして組織した。「安全管理」では株式会社大塚製菓工場の盛越氏にご登壇いただき、野外活動における熱中症対策について、ご講義いただいた。「青少年教育と体験活動」では、実際の事業場面を想定した課題をロールプレイングで班ごとに発表し、他グループと情報を共有しながら学んだ。

8 成果とその普及

参加者同士が交流する場面を多く設定できたことにより、参加者が主体的、意欲的に取り組む様子が見られた。東北学院大学から招聘した渡邊氏の講義により、参加者同士が交流を深めながらボランティアについて自然に考えることができる流れの講義を組んでいただき、今後のボランティア像などの理解を体験的に深めることができた。参加者のうち、社会人を除く学生参加者43名が、法人ボランティア登録を行った。本事業の参加者に対して、ボランティア活動の意義や魅力を十分に伝えることができた。また、法人ボランティアを班付きとして組織したことで、参加者の声を聴きながら講義を受けることができた。そして、参加者の補助を行い、アドバイスをすることで自分たちが法人ボランティアになった時に憧れていた先輩に、今、自分になっているという実感をもつことができ、意欲を高めることができたのではないかと感じた。

今回の参加者の大半が高校生であった。今後も積極的に近隣の高校に募集をかけることで、法人ボランティアの獲得につなげていきたい。そして、彼ら彼女らが県内の大学に進学した暁には、積極的に法人ボランティアとして活動してくれるよう今から積極的に働きかけを行っていく必要性があると感じた。

9 今後の課題

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、「安全管理」の救命救急法の講義を、消防などの外部講師に依頼することが出来なくなってしまった。幸い、当所の職員の一人が救命救急普及員の資格を持っていることで事なきを得たが、今後、事業の実施に際しては、講義を外部講師に委ねるばかりではなく、講習会に参加し資格を取得するなどして、職員が事業の講義を担うことで、より柔軟に事業運営が出来るのではないかと感じた。



救急救命法の様子



野外炊事の様子



講義の様子

1 事業名 令和2年度教育事業 「NEAL自然体験活動指導者（リーダー）養成研修（後期）」

2 趣旨

専門的な講師の指導の下、自然体験スキルを習得することで、ボランティアに必要な資質・能力を高めるとともに、NEALリーダーとして必要な知識・技術を身につける。

3 期日 令和2年7月4日（土）～7月5日（日）

4 参加者 高校生2名 大学生4名 社会人3名 計9名

6 内容

(1) 日程

7月4日（土）

9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	18:00	18:30	19:30	22:30	
受付	開 会 行 事	ガイ ダ ン ス	講義・演習 【自然体験活動の指導】	昼 食 ・ 休 憩	講義・演習 【対象者理解】	移 動	フィールドワーク 【自然体験活動の特質】	移 動 ・ 休 憩	夕 食	入浴・休憩	就 寝

7月5日（日）

6:30	7:30	8:30	10:30	11:00	11:30		
起 床	洗 面 ・ 清 掃	朝 食 ・ 休 憩	フィールドワーク 【自然体験活動の 技術】	ガイ ダ ン ス	認 定 試 験	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

滝沢里山研究会 事務局長	近藤 修三 氏
国立岩手山青少年交流の家 主任企画指導専門職	上村 佳邦
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職付	杉本 守
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係	日比野功宜
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係	中島 理佐

(3) 企画のポイント

昨年度は自然体験活動の特質において、当所の職員が所内の自然環境についての講義を行っていたが、今年度はより一層地域の自然体験活動の特色の理解を深めるため、岩手山麓の自然環境に造詣の深い滝沢里山研究会の事務局長の近藤氏を招聘し、森林造成の意図（景観と収益）についてご講義いただいた。またその他の講義では、当所での実際の指導場面を想定した内容を盛り込み、当所でのボランティア活動にも繋がりをを持たせることとした。

(4) 広報のポイント

年度初めにチラシを作成し、近隣の青少年教育施設や教育事務所に送付をした。また当所の法人ボランティアにはスキルアップの意味も込めて広報を行い、参加者を募った。結果、人数は少数ではあったが、高校生から社会人まで幅広い層の参加者を獲得することが出来た。

(5) 運営のポイント

日常ではあまり出来ないような体験を提供することを心掛け、講義から宿泊、試験まで南部曲り家での実施とした。また、自然体験活動の特質では、滝沢里山研究会に赴き、雨具を身に付けながら森林散策を行い、所外での活動も取り入れることが出来た。その他の講義は、当所の職員が講師

を務めることで、参加者の施設理解や今後のボランティア活動にも繋げることが出来た。職員自身も講義準備で自己研鑽を積み、専門性を追求することでスキルアップを図る良い機会となった。

8 成果とその普及

参加者からは「日常では体験できない事が経験できて良かったです。」「今まで参加した講座の中でもかなり良い体験ができたと思います。そして何より楽しかったです！自分の時間に余裕ができたらぜひ、ボランティアに参加したいと思います！」「山に入ってみて、新たに知ることやこれからボランティアするにあたって新たな知識等を得ることができた。」といった感想がみられ、主催者側が意図していたねらいを達成できたと感じるとともに、今後のボランティア活動での活躍が期待される。

9 今後の課題

参加者が9名と少なかった。今年度は新型コロナウイルスの関係で、前期のHow To ボランティアの日程が変更になったことも含め、計画的に参加者の確保を行う必要があると感じた。前述の課題も含め、当所のボランティアセミナー(How To ボランティア)にNEALを組み込んでいくかどうかを来年度への検討事項としたい。



自然体験活動の特質



対象者理解



自然体験の技術

- 1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
賢治の学校 「滝沢物語」～賢治の歩いた道を辿る～
- 2 趣 旨 岩手の偉人である宮沢賢治の青年時代の足跡を辿り、賢治の創作の基になった歴史的史跡や景勝地を見聞する活動や体験活動を通して、豊かな心情や自然への畏敬の念を育む機会とする。
- 3 期 日 令和2年10月17日(土)～10月18日(日)
- 4 参加者 岩手県内の4家族11名
- 5 後 援 岩手県教育委員会、滝沢市教育委員会
- 6 協 力 イーハトーブ団栗団、特定非営利活動法人馬と曲り家のおおさわ村

7 内 容

(1) 日 程

		9:00	9:30	10:00		12:30	14:00		17:00	17:30	18:00	19:00		20:30	21:30
10月17日(土)	晴天			受付 開会行事	～石コ賢さんの歩いた道～ 温泉(バス停) 影添坂(石英採取)・人面岩 鬼越坂(瑪瑙採取)	昼食(藤倉邸) 天ぷら そばとサイ	チャグ 馬コ チャグ	～石コ賢さんの歩いた道～ 大沢坂峠 新鬼越池	テ ン バ ー ク に 移 動	ベ ッ ド メ イ ク	夕 食	鉱物薄片観察 石英選別		入 浴	就 寝
	荒天	小雨決行 * 荒天時は当日判断でプログラムの変更があります													
		6:30	7:00	7:30	8:30	8:45	9:30	13:00	13:30	14:00					
18日(日)	晴天	起床 洗面・ 身支度 床度	清 掃	荷 物 整 理	朝 食	退 所 点 検	出 発	賢治ゆかりの地と詩碑巡り 岩手山神社 岩手山馬返し登山口 春子谷地温泉 小岩井駅・栗谷川宅 柳沢小学校	テ ン バ ー ク へ 移 動	閉 会 行 事	解 散				
	荒天	小雨決行													

(2) 指導者

- ・照井一明 氏 (理学博士)・・・岩石資料提供
- ・栗谷川寛衛 氏 (イーハトーブ団栗団)

(3) 企画のポイント

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉が岩手県民計画の冒頭県知事の言葉のタイトルとして挙げられている。賢治のその言葉に代表される「他人との関わり」や「繋がり」を大切にする県民性は風土の中で培われ養われた強みである。岩手県にあるナショナルセンターとして、地域や全国に発信できる教育テーマとして、「関わりや繋がりを大切にした学び」、つまり「過去(歴史)との繋がり、現在(いま)との関わり、(持続可能な)未来へ繋がる学び」を念頭に置き ESD を通して郷土や地域について学ぶこの事業を計画した。また、本施設の特色化として位置づける予定の「イーハトーヴ銀河プログラム」開発の試行的事業である。

○ESDの観点

- ・人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。

また、「イーハトーヴ銀河プログラム」は、岩手山周辺でその人生の3分の1を過ごした「宮沢賢治」をプログラムの視点に据える。賢治は、世界平和の希求、教育、音楽、鉱物(岩石)、土壌、植物、天体、フィールドワーク(体験活動)、文学、外国への造詣、信仰などに精通しており、小学校6年生の国語の教材「やまなし」の作者でもある。賢治を視点とし、感性(五感)にみる心象風景を感じることができるプログラムは、多様なジャンルで拡充・開発することができる。

この秋の事業では、岩石集めが好きで「石コ賢さん」と呼ばれた賢治の鉱物（岩石採取と観察）と文学に特化した体験プログラムにした。「宮沢賢治」という過去（歴史的偉人）に触れることで現在（今）の自分を見つめ、未来の自分の物語（ストーリー）に繋がっていくように、本物に触れる体験の提供にこだわり講師と共に企画した。このような事業を提供していくことで、施設の特色化を図り地域に必要とされる施設になっていくとともに、ナショナルセンターとして、代替の利かない唯一無二の存在へとなり得ると考える。

(4) 広報のポイント

昨年度から事業実施に向けて、近隣の駅や公共施設にポスター掲示依頼をした。また、春に岩手山青少年交流の家の年間行事を掲載したイベントカレンダーを岩手県内の全小学生児童に配付した。このイベントカレンダーに事業情報も盛り込んだ。さらに、夏期に施設を利用している団体や個人に事業があることを広報した。

(5) 運営のポイント

本事業は春・夏・秋と3つの特色をもった事業を実施予定であったが、コロナウィルス蔓延の影響もあり、事業の中止や日程変更を余儀なくされた。しかし、今回の秋の事業は岩手県内の親子に限定し、参加者も少数で実施することができた。講師には、賢治が歩いて採取した岩石の研究に精通している照井氏（事業当日は体調不良のため欠席）と本施設の七宝焼き講師でもあり賢治が歩いた旧道と岩石の採石地に詳しい栗谷川氏を招聘した。

初日は、賢治が歩いた旧街道沿いの「滝沢石」を採ったり、南部曲り家で手打ちそばを食べ、チャグチャグ馬コに触れたりし、大正から昭和初期の暮らしを体験した。夜のプログラムでは、採取した滝沢石の中から家族毎にダイヤモンド結晶を見つけたり、県内で採れる石の薄片を顕微鏡で観察したりした。二日目は、賢治の創作した詩碑をめぐり、創作のヒントとなった雄大な大地から賢治の創作意欲に想いを巡らせられるようにした。

8 成果とその普及

参加者を岩手県内の親子に絞り、少数で実施したが川での岩石採取や大沢坂という山の中の旧道を歩くには丁度よい人数であった。

親子で、実際に岩石を採取したり、顕微鏡で石の薄片を観察したりと日常ではできない体験を提供したことで、先人である賢治の発想の素晴らしさや自然の雄大さをそれぞれが感じ取っていたことがアンケートからも伺えた。

宮沢賢治の生地である花巻市周辺には、足跡を掘り起こした様々なイベントが行われているが、盛岡市・滝沢市・雫石町は賢治が多感な青春時代を過ごした地であり、創作活動のヒントを得たと思われる場所がたくさん存在する。この事業で幾つかの賢治にまつわる足跡を掘り起こせたことは大きな一歩であったと考えるとともに来年度の銀河プログラムの財産にすることができた。

9 今後の課題

今回は、晴天に恵まれ全て予定通り実施することができた。万が一、荒天だった場合は七宝焼きを予定していたが、時間が余ることも想像できる。体験を通して趣旨を達成するために荒天時プログラムを幾つか用意しておく必要がある。

また、二日目の詩碑巡りでは、石碑自体に難解な文字があったり、旧字体であったりしたため、小学校中・低学年には難しかったと思う。プログラムがどの年代を対象にすれば良いか、検討が必要になってくる。



滝沢石の採取の様子



ダイヤモンド結晶採取の様子



詩碑「くらかけ山の雪」群読の様子

- 1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
賢治の学校 「小岩井農場物語」～賢治の見た風景を辿る～
- 2 趣 旨 岩手の偉人である宮沢賢治の青年時代の足跡を辿り、賢治の創作の基になった歴史的史跡や景勝地を見聞する活動や体験活動を通して、豊かな心情や自然への畏敬の念を育む機会とする。
- 3 期 日 令和2年10月31日（土）～11月1日（日）
- 4 参加者 岩手県内の大人6名
- 5 後 援 岩手県教育委員会、滝沢市教育委員会、雫石町教育委員会
- 6 協 力 雫石と宮沢賢治を語る会、小岩井農牧

7 内 容

(1) 日 程

		10:30	11:00	11:30	12:30	13:00	15:00	15:30	17:00	18:00	19:00	21:00	21:30	22:30	
10月31日（土）	晴天		受 付	開 会 行 事	昼 食	小 岩 井 農 場 へ 移 動	～賢治の「春と修羅」 「狼森と穴盛、盗森」～ ・小岩井農場巡り ・狼森見学	～賢治の見た風景 ～荷替坂～旧鬼越池 ～燧掘山～新鬼越池～沼森～	テ ン バ ー ク へ 移 動	夕 食	岩手山周辺の賢治の創作活動や足跡講話	講 師 と の 交 流	絵 手 紙 創 作	入 浴	就 寝
	荒天														
		6:30	7:00	7:30	8:15	8:30	9:00	11:30	12:00	12:30					
11月1日（日）	晴天	起 床	洗 面 ・ 身 支 度	清 荷 物 整 理	朝 食	退 所 点 検	雫 石 へ 移 動	～賢治の物語「化物工場」～ ・鞍掛山詩碑 ・賢治の夜行話 ・橋場駅見学 ・化物工場見学	テ ン バ ー ク へ 移 動	閉 会 行 事	解 散				
	荒天														

(2) 講師

- ・ 関 敬一 氏 (雫石と宮沢賢治を語る会)
- ・ 野沢裕美 氏 (小岩井農場資料館)

(3) 企画のポイント

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉が岩手県民計画の冒頭県知事の言葉のタイトルとして挙げられている。賢治のその言葉に代表される「他人との関わり」や「繋がり」を大切にする県民性は風土の中で培われ養われた強みである。岩手県にあるナショナルセンターとして、地域や全国に発信できる教育テーマとして、「関わりや繋がりを大切にしたい学び」、つまり「過去（歴史）との繋がり、現在（いま）との関わり、（持続可能な）未来へ繋がる学び」を念頭に置き ESD を通して郷土や地域について学ぶこの事業を計画した。また、本施設の特色化として位置づける予定の「イーハトーヴ銀河プログラム」開発の試行的事業である。

○ESD の観点

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。

また、「イーハトーヴ銀河プログラム」は、岩手山周辺でその人生の3分の1を過ごした「宮沢賢治」をプログラムの視点に据える。賢治は、世界平和の希求、教育、音楽、鉱物（岩石）、土壌、植物、天体、フィールドワーク（体験活動）、文学、外国への造詣、信仰などに精通しており、小学校6年生の国語の教材「やまなし」の作者でもある。賢治を視点とし、感性（五感）にみる心象風

景を感じることができるプログラムは、多様なジャンルで拡充・開発することができる。

この春の事業では、賢治が友人達と大自然の中を歩いたり岩手山をはじめとする山々に登ったりした経験から、詩や物語の創作のヒントを得ていった「風景」を学ぶ体験プログラムにした。「宮沢賢治」という過去（歴史的偉人）に触れることで現在（今）の自分を見つめ、未来の自分の物語（ストーリー）に繋がっていくように、実際の体験地を訪れる経路を講師と共に企画した。このような事業を提供していくことで、施設の特色化を図り地域に必要とされる施設になっていくとともに、ナショナルセンターとして、代替の利かない唯一無二の存在へととなり得ると考える。

(4) 広報のポイント

昨年度から事業実施に向けて、近隣の駅や公共施設にポスター掲示依頼をした。また、施設利用者に対して、チラシを施設内に設置し事業があることを広報した。

(5) 運営のポイント

本事業は春・夏・秋と3つの特色をもった事業を実施予定であったが、コロナウィルス蔓延の影響もあり、事業日の変更を余儀なくされた。しかし、春の事業は岩手県内在住者に限定し、参加者も少数で実施するようにした。講師には、賢治が中学生時代に訪れ作品創作の舞台にもなった小岩井農場の資料館館長の野沢氏と盛岡高等農林学校時代の実習地がある雫石町で賢治の足跡に精通し自身でも様々な事業を企画している関氏を招聘した。

初日は、賢治の作品である「春と修羅」の舞台であった小岩井農場内を歩き、賢治とのゆかりについて講義を受けた。また、夜には賢治の生い立ちについて詳しく聞いたり、童話「度十公園林」の読み聞かせを聴いたりすることで賢治の想いの深さを学ぶことができるようにした。二日目は、賢治の創作した詩碑を見たり、青年時代に何度も訪れた雫石町で体験した場所で講話を聴いたりし、賢治の創作活動の素晴らしさを体験できるようにした。

8 成果とその普及

参加者を岩手県内の成人に絞り、少数で実施した。参加者には、賢治の生誕の地である花巻市出身の方が多く参加された。

小岩井農場では、賢治が体験した時代の建造物が重要文化財として残っていたり、今は使われていない当時の駅舎跡地や道を巡ったりすることで、賢治と想いを重ねることができた。感受性が強い人物であったことも童話の中から感じ取られ、賢治の発想の豊かさを感じ取っていたことが参加者のアンケートからも伺えた。

宮沢賢治の生地である花巻市周辺には、足跡を掘り起こした様々なイベントが行われているが、盛岡市・滝沢市・雫石町は賢治が多感な青春時代を過ごした地であり、創作活動のヒントを得たと思われる場所がたくさん存在するにもかかわらず、足跡が形に残っていない。この事業で幾つかの賢治にまつわる足跡を掘り起こせたことは大きな一歩であったと考えるとともに来年度のイーハトーヴ銀河プログラムの財産にすることができた。

9 今後の課題

今回も、晴天に恵まれ全て予定通り実施することができた。万が一、荒天だった場合でも雨天決行と考えていたが、体験を通して趣旨を達成するために荒天時プログラムを幾つか用意しておく必要がある。また、参加対象をどの年代までにするか検討が必要である。



小岩井駅前の詩碑の解説を聞く参加者



天然の冷蔵庫前



賢治の人生講話を聴講している様子

1 事業名

令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
「テンパークちゃれんじくらぶ」

2 趣旨（事業の目的）

季節が秋から冬へと移り変わろうとする中で、自分たちの住む地域の「豊かさ」や大自然の中で体を動かすことの楽しさを、仲間と共に体感させる。

3 期日 令和2年11月21日（土）～22日（日）

4 参加者 50名（盛岡市，滝沢市，八幡平市，雫石町の小学3～6年生）

5 後援 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会
雫石町教育委員会 八幡平市教育委員会

6 内容

(1) 日程

日時	13:00													13:30	14:00	15:00		17:00	17:30	18:30	19:00	20:00	21:00	21:30		
11月21日 (土)														小学生 受付	は じ め の 会	ドキドキわくわく 友達づくり (焼き芋づくり)	ドキドキわくわく 外遊び		移 動	夕 食	休 憩	ドキドキわくわく テンちゃれんじびっく	入浴	就 寝 準 備	就 寝	
日時	6:30	7:00	7:30	8:30	8:45	9:00	11:15	12:15	12:30	13:30	14:00	14:30														
11月22日 (日)	起 床	洗 面 ・ 準 備	つ ど い	朝 食	退 所 点 検	移 動	ドキドキ わくわく 南部 せんべい づくり	ドキドキ わくわく クリスマス リース づくり	移 動	昼 食	ア ン ケ ー ト 記 入	お わ り の 会	参 加 者 解 散													

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鈴木 茂
	事業推進係	日比野 功宜
	事業推進係	楢木 裕朗
	事業推進係	中島 理佐
指導補助	法人ボランティア	15名

(3) 企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、法人ボランティアの高校生や大学生をグループリーダーとして配置した。そして、小学生が高校生や大学生との触れ合いや体験活動を通して、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会とした。

企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において企画会議、事前準備を行い、活動全体を通して、参加者が自分たちの住む地域の「豊かさ」や大自然の中で体を動かすことの楽しさを、仲間と共に体感できるようなプログラムづくりを目指した。地域の豊かさを体感させるために取り入れたのが、焼きイモづ

くりと南部せんべいづくりの二つの体験活動である。

焼きイモづくり体験では、地元・滝沢市の特産品であるサツマイモ品種（クイックスイート）を取り上げ、ボランティア自らが事前に収穫を体験したり、〇×クイズを考案したりするなどし、生産現場の様子が参加者に伝わるようにした。また、南部せんべいづくりではボランティアが発祥伝説を寸劇で紹介し、活動に対する参加者の興味関心が高まるよう工夫した。また青森県立種差少年自然の家との連携のもと、安全面・衛生面で万全を期した。

なお、天候に恵まれない時期の開催であることを踏まえ、天候や参加者の体調によるプログラム変更に対応できるような準備を心がけた。

(4) 広報のポイント

年度当初に年度の事業一覧を岩手県内全児童に配付するとともに、当施設ホームページに事業の概要を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へは、開催要項とチラシ、ポスターを送付した。

(5) 運営のポイント

参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち6～7人の8班に法人ボランティア2～3名ずつをグループリーダーとして配置するとともに、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにし、コミュニケーションを深め、より楽しく活動できるようにした。

また、全体での共通理解を図りながら運営に関わることを目指して、本部ミーティング、スタッフミーティングなどそれぞれの役割を明確にした組織運営体制を敷き、子供たちの健康や安全に関わる情報をスタッフ全体で確実に共有できるようにした（後掲補足資料参照）。

なお、事業実施直前になって周辺地域において新型コロナウイルスの感染拡大が見られたことから、マスク着用、手指消毒等の感染予防策の徹底には細心の注意を払った。

8 成果とその普及

参加した子供たちは、はじめは不安や緊張を感じている様子も見られたが、各グループのリーダーや仲間と関わる中で次第に打ち解け、協力して活動を楽しむ姿が見られるようになっていった。子供たちがグループリーダーに親しみをもって接していくことで、経験の浅い高校生ボランティアたちも次第に自らの役割をよく理解するようになり、積極的に子供たちと関わる姿が見られるようになっていった。

参加者のアンケートには、「同じ小学校の人はひとりもいなかったけれど、積極的に声をかけてたくさん友達をつくることができた。協力する活動がたくさんあって楽しかった」、「外遊びでピンゴゲームをやったのがいちばん楽しかった。顔に似た葉っぱを見つけるのが難しかった。テンチャレンじびくでは、みんなで協力をして2位になれてうれしかった。また参加したい」、「外遊びが楽しかった。最初は緊張したけれど、ボランティアの人たちがやさしくて、活動がとてもしやすかった」、「焼きイモのおいしさに驚いた。南部せんべいも、中がふわふわで驚いた。またぜひ参加したい」などの感想が寄せられた。これらの記述から、法人ボランティアが活動を支える大きな力となっていたことをあらためて感じさせられた。また、子供たちが直接体験をとおして大自然の中で体を動かすことの楽しさを感じ取ったこと、また特産品や伝統食の手づくり体験をとおして、自分たちの住む地域にあらためて目を向ける大きなきっかけとなったことが伺

える。1泊2日という短い時間ではあったが、子供たちが十分満足できる活動を提供できたもの
と考える。

上記の成果が得られた要因として、体験活動（焼きイモづくりをする、南部せんべいづくりを
する等）をその場限りで終わってしまう単なる体験にとどめず、地域素材について学ぶ機会（寸
劇や〇×クイズ）を設けたり、地域人材や他施設と連携したりすることにより、質の高い重層的
な体験活動に高めたことが挙げられる。テンチャれんじびっくや外遊びの場面においても、子供
の発達段階やこの時季における施設周辺の環境・自然条件を十分考慮した上でプログラムの内容
を検討したことが、参加者の満足度の高さにつながったのではないかと考える。

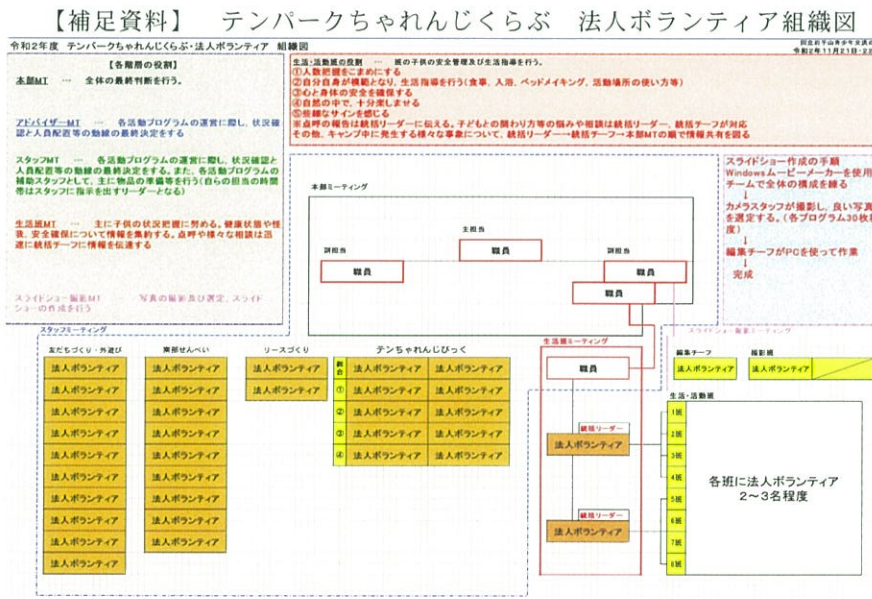
9 今後の課題

今年度参加した児童が、来年度参加したとしても、また同じように満足してもらえるように、
企画に携わる法人ボランティアとともに情報収集を図りながら、新規のプログラム開発も視野に
入れ活動内容を企画・運営していくことが求められる。

また、他施設との連携や直前になって感染が拡大したコロナウイルスへの対応に多くの時間を
要したこともあり、結果的にボランティアとの間で事業当日の動きについて十分な共通理解がで
きなかつたことが大きな反省点として挙げられる。当日の運営も含め、企画の初期の段階から法
人ボランティアの裁量で判断できる事案は法人ボランティアに委ね、自主性や企画力を養成する
場となるようにコーディネートしていくことが、今後の当施設のボランティア養成全体に関わる
最大の課題であることが確認できた。



「ドキドキ わくわく ネーチャーゲーム」 「ドキドキ わくわく 焼きイモづくり」 「ドキドキ わくわく 南部せんべいづくり」



- 1 事業名 令和2年度教育事業 子供の貧困対策事業「生活・自立支援キャンプ」
「体験の風をおこそう」運動事業 「めんこいキャンプ」
- 2 趣 旨 困難な環境にある児童養護施設の子供たちに対し、自然体験活動や集団宿泊体験等を通して、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、コミュニケーション能力の向上を図り、それぞれの目標に向けてやり直し、自分に自信をつける機会とする。

3 年間計画

No.	期日	内容	場所・時間	備考
1	令和2年 7月10日(金)	担当者会議①	一関藤の園	事業に関わる意見交換 参加者についての情報交換
2	令和2年11月13日(金)	担当者会議②	岩手山青少年交流の家	事業に関わる計画の確認 事前施設見学
3	令和2年12月上旬 ～12月下旬	開催案内送付 参加者集約		開催案内送付 参加者集約後、アレルギー調査票等送付 ※事前活動前に受け取り
4	令和3年1月12日(火)	事前活動	一関藤の園	参加者との顔合わせ *しおり配付
5	令和3年 2月 6日(土) 7日(日)	事業	国立岩手山青少年交流の家	「めんこいキャンプ」
6	令和3年 2月10日(水)	事業反省集約		事業の振り返り

- 4 参加者 小学生15名(男子9名 女子6名) 中学生6名(男子3名 女子3名)
高校生 8名(男子3名 女子5名)
合計 29名

- 5 連携・協力 児童養護施設一関藤の園
岩手県教育委員会 一関市教育委員会

6 内 容

(1) 令和3年2月6日(土)～2月7日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時	
2/6 (土)	施設から交流の家へ移動 (送迎バス) 施設 9:00発					はじめの会	レクリエーション	昼食・休憩	雪遊び① 雪投げ 雪灯りづくり アイスクリームづくり	ベッドメイク・フリータイム	入浴	夕食・休憩	創作活動	館内ナイトハイク	就寝準備	就寝			
2/7 (日)	清掃	つどい	朝食・準備	退所点検	雪遊び② そりあそび スノーチューブ スノーシュー			昼食・休憩	アンケート記入	交流の家から施設へ帰所 (送迎バス) 交流の家 14:00発									

(2) 指導者

児童養護施設一関藤の園	心理療法担当職員	村田徳和
児童養護施設一関藤の園	保育士	吉田彩香
児童養護施設一関藤の園	保育士	小野寺伶菜
児童養護施設一関藤の園	保育士	村上史恩
児童養護施設一関藤の園	保育士	千葉茉生
児童養護施設一関藤の園	保育士	千葉奨太
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係長兼副主任企画指導専門職	林田健志
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	工藤孝
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係員	楢木裕明
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職付	杉本守

(3) 企画のポイント

連携施設を訪問し、事業の説明を行うとともに、連携施設職員の事前施設見学を兼ねて当施設において打ち合わせを入念に行うことで、本事業の目的と内容について連携施設職員と共通理解を図り、子供たちの実態を考慮した活動を実施することができるようにした。

また、連携施設における生活のルールや制限により、普段、自然と触れ合う機会が少ないことや、事前アンケートで雪遊びに高い関心を示していたことから、そり遊びやスノーシュー体験、雪灯りやアイスクリーム作りなど、雪に触れる機会を多く取り入れたプログラムを構成した。

キャンプ実施1ヶ月後に連携施設を訪問し、子供の変容の持続状況等を把握することで、次年度の事業の企画・運営に生かすことができるようにした。

(4) 広報のポイント

連携施設内で参加者を募るときに、子供たちがキャンプの全体像をつかむことができるように、チラシの内容に活動がイメージできる写真や日程を盛り込んだ。参加者は様々な家庭事情を抱えているため報道機関への広報は行わなかった。

(5) 運営のポイント

参加する子供たちがめんこいキャンプへの理解を深めることができるように、連携施設を訪問して顔合わせ会を行った。顔合わせ会では、活動内容をイメージできる写真を盛り込んだしおりを使って日程や活動内容を説明したり、キャンプ中の役割分担を話し合ったりする時間を設けた。顔合わせ会後は、キャンプで活動するアイスクリーム作りやワックスボール作りの説明を行い活動のイメー

ジがわくように図った。

キャンプでは、1つの活動班に連携施設職員が1名ずつ配置され、配慮が必要な子供にも対応できるようにした。交流の家職員4名は全体を掌握し、スムーズに運営できるようにした。また、参加者就寝後にスタッフミーティングを行い、運営面における改善点と健康・安全管理上の留意点について共有し、連携施設職員と交流の家職員とで共通理解を図ることで2日目の活動において有効な支援ができるようにした。併せて子供たちの実態に合わせて日程の見直しを行い、ゆとりをもって楽しく活動ができるようにした。

7 成 果

雪遊び①の活動では、高校生がリーダー役になり雪灯り作りやかまくら作りを進めていた。「みんなで協力してバケツにいっぱい雪を詰めて、雪灯りをたくさん作ることができた」「アイスボールを転がすのが大変だったけど、みんなで作ったアイスクリームはとてもおいしかった」という声も聞かれ、班ごとに協力しながら活動に取り組む姿が見られた。

ワックスボール作りでは、ロウが付いた水風船を割らないように慎重に歩きながら思い思いの色付けや絵を描き、楽しみながら作品作りに取り組んでいた。

館内ナイトハイクでは、年上の子供が年下の子供に配慮しながら活動している姿が見られ、普段とは違った交友関係を築く機会にすることができた。

雪遊び②の活動では、長い斜面で存分にそりやスノーチューブを楽しむ姿が見られた。子供たちからは、「スノーチューブに乗って回りながら滑るのがとても楽しかった」「初めてあんなに長い坂でそりをすることができた。もっと滑りたかった。」という声が聞かれた。また、スノーシュー体験では、「初めてスノーシューをはいて雪の上を歩いたり森の中を探検したりして楽しかった」「スノーシューをはいて歩くのがとても大変でした。疲れたけどいい経験でした」「動物の足跡を見つけることができてうれしかった」などの声が聞かれ、新たに雪上での活動の楽しさを実感する機会となった。

事業終了後には、連携施設の職員から「普段の施設での生活とは違った、一堂に会しての活動を楽しむことができた。」「子供と職員との距離感が縮まり、積極的にコミュニケーションをとることができるようになった。」「自分のペースで活動に取り組むことができ、集団で動くことが難しい子どもも活動に取り組むことができてよかった」など自己肯定感やコミュニケーション能力の向上が期待される感想が寄せられた。また、連携施設の思いや願い、キャンプ中の子供たちとの関わり方等について再確認することができた。

8 今後の課題

事業を企画する段階から連携施設と密に連絡を取り合い、参加する子供や施設職員の願いを取り入れたり、参加する子供の実態や発達段階に合わせたプログラムを構成したりすることにより、事業の趣旨に迫ることができるものとする。



レクリエーション



アイスクリーム作り



雪灯り作り



ワックスボール作り



スノーシュー体験



スノーチューブ

コロナウイルス蔓延による特別事業

第1弾「創作体験キット送ります！！」

1 事業の趣旨

新型コロナウイルス感染症の影響により「STAY HOME」を余儀なくされている全国各地の子供たちを対象に、自宅で創作体験ができる「創作体験キット」を送付し、直接体験に触れる機会を増やすことを目的とする。

2 実施期間

令和2年5月12日(火)～31日(日)

3 対象及び申込件数等

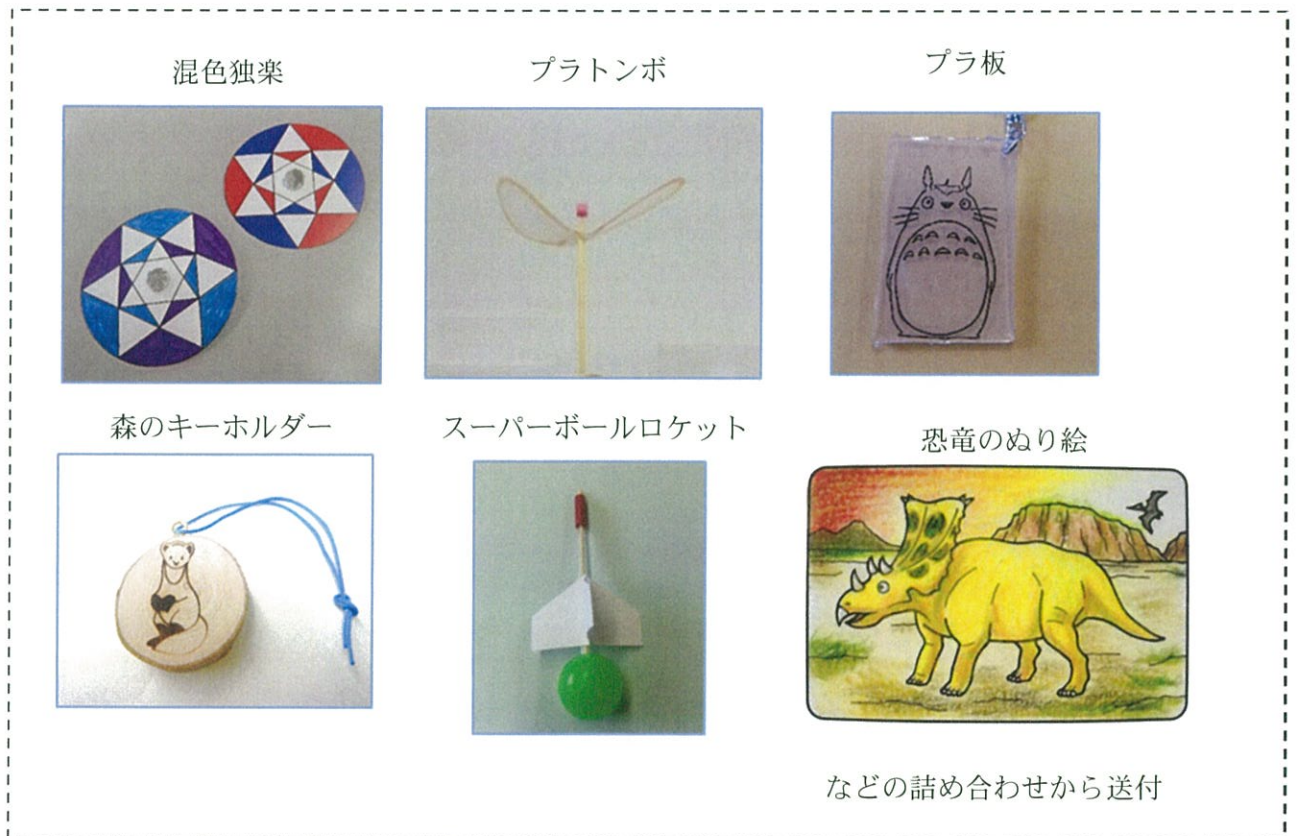
全国の小学生以下の子ども

①申込件数（団体数）及び申込者数

2580件（6件） 合計 2586件

②申込者数（発送数）

4944人



第2弾「そうだ！テンパークへ行こう！！」

1 事業の趣旨

- ・ 外出をひかえ、家で過ごす時間が長くなっている全国の子どもたちに工作キットを提供するとともに、岩手山青少年交流の家の近隣の子どもたちとその保護者に対して、自然や遊具などを活用した遊びを提供することによって、心身の健康と興味関心や意欲の増進を図る。
- ・ 近隣市町村の要望に応えることによって、50周年に向けての協力につなげる。
- ・ レストランにて、カレーライスとフリードリンクを提供する。

2 実施期間

令和2年5月22日（金）～31日（日） 10:00～16:00

3 対象と受入可能人数

- ・ 岩手県内在住の小学生以下の子供とその保護者等の個人利用。※家族に中学生以上の子どもがいても可。

	5月23日 (土)	5月24日 (日)	5月25日 (月)	5月26日 (火)	5月27日 (水)	5月28日 (木)	5月29日 (金)	5月30日 (土)	5月31日 (日)	計
団体数	3	6	0	0	0	1	1	12	20	43
大人	5	12	0	0	0	4	1	16	34	72
子ども	9	10	0	0	0	29	1	21	33	103
利用者 計	14	22	0	0	0	33	2	37	67	175

第3弾「テンパークスタンプラリー！！」

1 事業の趣旨

国立岩手山青少年交流の家の敷地内に設置したスタンプを探しながら自然に慣れ親しむ活動を通じて、コロナ禍のため外出を控え、家で過ごす時間が長くなっている子どもたちとその保護者が、心身の健康の増進を図るとともに、自然への興味関心を深める。

2 実施日

令和3年2月14日（日）・21日（日）・28日（日） 9:00～16:00

3 対象者

岩手県在住のお子様とその家族の方

特別
企画

国立岩手山青少年交流の家

創作体験キット 送ります！

「STAY HOME」でおうち時間を過ごしている子どもたちに、国立岩手山青少年交流の家では、創作体験キットを用意しました。何が届くかは、お楽しみ！！**1人1セット**お送りします。

★申込期間 令和2年5月12日（火）～5月31日（日）

★対象 全国の小学生以下の子ども

★利用料金 無料（送料等もかかりません）

★申込方法 左のQRコードから申込フォームにアクセスし、必要事項を入力してください。きょうだいでお申し込みの場合は、お子様の氏名と年齢は、それぞれ入力してください。



※入力していただいた個人情報は適切に管理し、キットを発送する目的にのみ使用させていただきます。

【問合せ先】

国立岩手山青少年交流の家

TEL：019-688-4221

<https://iwate.niye.go.jp>

国立岩手山青少年交流の家

特別企画 第2弾！

そうだ！ テンパーク へ行こう！！



岩手県在住の乳幼児・幼稚園児・保育園児・小学生を含むご家族のみな様

令和2年5月23日（土）～31日（日）の期間

10:00～16:00の時間帯

国立岩手山青少年交流の家(テンパーク)を開放します！！

外で思いっきり遊びませんか？

(自然散策、外遊び、館内オリエンテーリングができます)

施設利用料はかかりません！

お子様には創作体験キットをプレゼントします！

マスクと遊びに使うものはご持参ください

食堂では、カレーライス&フリードリンクを300円でご提供します！！

ご来場の際は、事務室で受付をお願いします

運がよければ
ぼくにも会えるよ
※Facebookでテン
ちゃん動画配信中！

ひとり親・多子世帯等でマスクが行き届かないご家庭に、香川照之氏からご寄贈いただいた昆虫がプリントされた布製マスクを1世帯1枚、無料で配布します。配布期間は5/23(土)から、数に限りがあります。ご希望の方は国立岩手山青少年交流の家事務室受付にて職員にお声がけください。

問合せ先：国立岩手山青少年交流の家

019-688-4221



デンパーク スタンプラリー!!

2021
2/14(日)
21(日)・28(日)
9:00~16:00
無料!!

は ^{ふゆ} ^{のやま} ^{ある}
スノーシューを履いて、冬の野山を歩きながら ^{さが}
^{かく} 隠されたスタンプを探そう!!

対 象 : 岩手県在住のお子様とご家族の方
場 所 : 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市後292)
持 ち 物 : 防寒着 (スキーウェア等)、手袋、帽子
長靴 (又はスノーブーツ)、マスク
問合せ先 : 国立岩手山青少年交流の家
TEL019-688-4221

ご来場の際は、事務室で受付をお願いいたします。

さらに!!

各回先着15家族(1家族1個)
海老名サービスエリア名物

**「海老名メロンパン」
プレゼント!!**

※岩手山青少年交流の家内の
レストランにて限定販売も
しております。

令和2年度施設利用状況

1. 団体区分別利用状況 ※宿泊利用のみ

	R元年度		R2年度		増減(R2-R元)	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
幼稚園・保育園	4	284	4	274	0	▲ 10
小学校	42	3,974	23	2,586	▲ 19	▲ 1,388
中学校	62	11,456	18	1,717	▲ 44	▲ 9,739
高等学校	27	9,050	4	849	▲ 23	▲ 8,201
特別支援学校	4	165	0	0	▲ 4	▲ 165
大学、専門学校等	22	2,161	4	132	▲ 18	▲ 2,029
青少年活動関係団体 (スポーツ少年団、部活等)	230	20,427	46	3,704	▲ 184	▲ 16,723
その他団体	204	21,022	37	3,201	▲ 167	▲ 17,821
合計	595	68,539	136	12,463	▲ 459	▲ 56,076

2. 都道府県別利用状況 ※上記のうち、中学校、高等学校のみ

(1) 中学校

	R元年度		R2年度		増減(R2-R元)	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
青森県	6	1,495	0	0	▲ 6	▲ 1,495
岩手県	36	5,000	13	1,139	▲ 23	▲ 3,861
宮城県	12	3,861	4	536	▲ 8	▲ 3,325
秋田県	6	1,044	0	0	▲ 6	▲ 1,044
山形県	1	36	0	0	▲ 1	▲ 36
福島県	0	0	0	0	0	0
その他	1	20	1	42	0	22
合計	62	11,456	18	1,717	▲ 44	▲ 9,739

(2) 高等学校

	R元年度		R2年度		増減(R2-R元)	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
青森県	6	2,148	1	62	▲ 5	▲ 2,086
岩手県	14	2,692	1	37	▲ 13	▲ 2,655
宮城県	5	3,356	0	0	▲ 5	▲ 3,356
秋田県	1	292	0	0	▲ 1	▲ 292
山形県	0	0	0	0	0	0
福島県	1	562	2	750	1	188
その他	0	0	0	0	0	0
合計	27	9,050	4	849	▲ 23	▲ 8,201

令和2年度 利用者数等について

(1) 令和元年度（研修支援事業及び教育事業）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	団体数	131	149	144	154	170	117	125	78	54	86	88	21	1,317
	利用者数	11,078	10,847	11,458	11,896	14,542	10,927	11,405	3,287	4,209	5,670	3,210	1,129	99,658
宿泊	団体数	70	71	74	76	117	62	44	36	15	43	32	34	674
	利用者数	9,010	8,538	7,411	10,084	9,599	5,941	5,414	2,389	3,442	4,411	1,809	846	68,894
日帰	団体数	61	78	70	78	53	55	81	42	39	43	56	18	674
	利用者数	2,068	2,309	4,047	1,812	4,943	4,986	5,991	898	767	1,259	1,401	283	30,764

(2) 令和2年度（研修支援事業及び教育事業）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	団体数	30	8	94	82	93	93	89	37	33	52	58	34	703
	利用者数	1,103	310	2,184	1,880	3,244	4,100	5,727	1,455	1,527	1,934	3,043	1,427	27,934
宿泊	団体数	1	0	12	12	36	29	21	13	7	12	4	10	157
	利用者数	664	0	681	394	2,555	2,402	2,389	936	897	1,192	134	1,094	13,338
日帰	団体数	29	8	82	70	57	64	68	24	26	40	54	24	546
	利用者数	439	310	1,503	1,486	689	1,698	3,338	519	630	742	2,909	333	14,596

(3) 令和元年度と令和2年度の差

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	団体数	-101	-141	-50	-72	-77	-24	-36	-41	-21	-34	-30	-18	-645
	利用者数	-9,975	-10,537	-9,274	-10,016	-11,298	-6,827	-5,678	-1,832	-2,682	-3,736	-167	298	-71,724
宿泊	団体数	-69	-71	-62	-64	-81	-33	-23	-23	-8	-31	-28	-24	-517
	利用者数	-8,346	-8,538	-6,730	-9,690	-7,044	-3,539	-3,025	-1,453	-2,545	-3,219	-1,675	248	-55,556
日帰	団体数	-32	-70	12	-8	4	9	-13	-18	-13	-3	-2	6	-128
	利用者数	-1,629	-1,999	-2,544	-326	-4,254	-3,288	-2,653	-379	-137	-517	1,508	50	-16,168

(4) 令和元年度と令和2年度の差の累計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	団体数	-101	-242	-292	-364	-441	-465	-501	-542	-563	-597	-627	-645	
	利用者数	-9,975	-20,512	-29,786	-39,802	-51,100	-57,927	-63,605	-65,437	-68,119	-71,855	-72,022	-71,724	
宿泊	団体数	-69	-140	-202	-266	-347	-380	-403	-426	-434	-465	-493	-517	
	利用者数	-8,346	-16,884	-23,614	-33,304	-40,348	-43,887	-46,912	-48,365	-50,910	-54,129	-55,804	-55,556	
日帰	団体数	-32	-102	-90	-98	-94	-85	-98	-116	-129	-132	-134	-128	
	利用者数	-1,629	-3,628	-6,172	-6,498	-10,752	-14,040	-16,693	-17,072	-17,209	-17,726	-16,218	-16,168	

2020年度（令和2年度） 当施設におけるボランティアの活動状況

（1）活動の概況

6月20日、21日に法人ボランティア養成事業の「How To ボランティア」を実施し、今年度も継続して登録した法人ボランティア99名に加え、43名が新規にボランティア登録し、総勢142名が当施設の事業運営の補助を行ってきた。そして、年9回実施の「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」をとおして、ボランティアとしてのスキルアップや事業に向けた運営の準備、自主企画の準備等を行った。継続登録の法人ボランティアが本年度登録のボランティアの指導を含めた活動を行い、当施設の運営に大きく貢献している。

2月末にリモートで行われる「ボランティア&ボランティア・コーディネーターミックスキャンプ」では、2名が自主企画事業（テンパークちゃれんじくらぶ）の報告発表をする予定であり、全国規模で岩手山の法人ボランティアが活躍している。今年度は、岩手山法人ボランティア2名が、国立青少年教育振興機構の理事長表彰を受けることが決定している。

（2）2021年1月末日までのボランティア活動状況

No	活動名	参加状況		主な活動内容
		日数 (延べ)	人数	
1	How To ボランティア	2	7	ボランティア活動紹介, 受講者の補助
2	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト (年間9回)	7	45	講義, 演習, 自主企画事業 (テンパークちゃれんじくらぶ) の打ち合わせや事前研修 等
3	テンパークファミリーキャンプ② ～親子ビギナーズキャンプ～	2	5	体験活動補助, 生活指導補助
4	みちのくキャラバン活動	2	1	広報活動補助
5	テンパークファミリーキャンプ④ ～そうだ!テンパークへ行こう!!～	2	5	体験活動補助, 生活指導補助
6	テンパークちゃれんじくらぶ	2	15	企画運営, Gリーダー, 体験活動補助, 生活指導補助
7	スキー・スノーボード体験 in テンパーク A日程	2	3	体験活動補助, 生活指導補助
8	スキー・スノーボード体験 in テンパーク B日程	2	4	体験活動補助, 生活指導補助
9	テンパークファミリーキャンプ⑤ ～親子ウィンターキャンプ～	2	13	体験活動補助, 生活指導補助
10	ボランティア&ボランティア・コーディネーターミックスキャンプ	1 (予定)	2 (予定)	自主企画事業報告発表, 自主企画研修



How To ボランティアの参加者



ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト



テンパークちゃれんじくらぶ

令和2年度予算配分について

I 令和元年度および令和2年度当初予算配分について

(単位：千円)

財源	目的	形態別科目	令和元年度 当初配分額	令和2年度 当初配分額	令和元・ 令和2年度 増減額
1 運営費交付金等	人件費	非常勤職員人件費	10,313	11,012	699
	事業費	教育事業・研修支援事業経費	7,910	7,410	▲500
	管理運営費	事業・管理運営経費	71,912	65,310	▲6,602
	小計		89,093	83,732	▲6,403
2 運営費交付金 (基金事業)	普及啓発事業経費	生活・自立支援キャンプ	751	775	24
	小計		1,000	775	24
3 外部資金	預かり金	地域ぐるみで体験の風を起こそう運動推進事業	3,499	3,499	0
	寄附金	遊育プログラム	0	0	0
	寄附金	NICE・ボランティア養成等事業	0	0	0
	小計		3,739	3,499	0
合計			93,832	88,006	▲6,379

II 令和2年度予算配分について

(単位：千円)

財源	目的	形態別科目	当初配分額	追加配分等	合計
1 運営費交付金等	人件費	非常勤職員人件費	11,012	1,739	12,751
	事業費	教育事業・研修支援事業経費	7,410	194	7,604
	管理運営費	事業・管理運営経費	65,310	▲7,149	58,161
	小計		83,732	▲5,216	78,516
2 運営費交付金 (基金事業)	普及啓発事業経費	生活・自立支援キャンプ	775	0	775
	小計		775	0	775
3 外部資金	預かり金	地域ぐるみで体験の風を起こそう運動推進事業	4,400	0	4,400
	小計		3,499	0	4,400
合計			88,006	▲5,216	83,691

当施設に関する記事の掲載について

令和2年4月～令和3年3月

No	掲載日	媒体名	記事タイトル等
1	2. 4. 14	盛岡タイムス	雫石高 町やNPOと連携 地域で活躍する人材育成
2	2. 7. 10	広報しづくいし	自ら「学ぶ」ということ自ら「未来」を探ること 魅力的な高校へ 雫石高校キャリア教育支援「虹色コンパス」
3	2. 7. 31	岩手日報	仲間と連携深め課題解決力磨く 雫石高キャリア教育
4	2. 9. 23	盛岡タイムス ※記事有	体験の風をおこそう関連イベントを展開 子どもたちの活動を 手助け
5	2. 10. 6	岩手日報	友好都市のお茶いかが 雫石高生、富士市(静岡)をPR
6	2. 10. 8	教育しづくいし	主体的な進路実現「雫高虹色コンパス」
7	2. 10. 10	広報しづくいし	魅力的な高校へ 雫石高校キャリア教育支援「虹色コンパス」
8	2. 12. 7	滝沢市ホームページ	自然体験活動を満喫～仲間とアツアツの焼き芋
9	2. 12. 25	岩手日報 ※記事有	雫石高、全国枠に選出 地域探究アワードグループ活動を発表
10	3. 2. 3	岩手日報	仕事や地域課題探究成果幅広く 雫石高生報告会
11	3. 2. 15	日本教育新聞	見知らぬ土地で「つながり」得る
12	3. 2. 16	岩手日報	地域探究プログラム全国発表 「雫石高に特別賞」

盛岡タイムス

令和2年9月23日(水) 6面

「みちのく『体験の風をおこそう』運動推進事業」のPRで訪れた国立岩手山青少年交流の家のキャラバン隊



体験の風をおこそう

国立岩手山青少年交流の家（滝沢市後、愛称・テンパーク）のキャラバン隊が17日、盛岡市本町通の盛岡タイムス社を訪れ、同施設が展開している「みちのく『体験の風をおこそう』」運動推進事業をPRした。

関連イベントを展開

青少年の
岩手山流
交流
子どもたちの活動を手助け

国立青少年教育振興日に予定していた「テニスコ賢さんの歩いた道を機構が実施した調査結果によると、青少年期の体験活動が豊富な大人ほど、「やる気」や「生きがい」を持っている傾向が強い。しかし、電子メディアの普及や少子化など社会の変化を受け、子どもたちの体験活動が減少しているという。

国立青少年教育振興日に予定していた「テニスコ賢さんの歩いた道を機構が実施した調査結果によると、青少年期の体験活動が豊富な大人ほど、「やる気」や「生きがい」を持っている傾向が強い。しかし、電子メディアの普及や少子化など社会の変化を受け、子どもたちの体験活動が減少しているという。

このような状況も踏まえ、同施設では各種体験事業を実施しているが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、中止を余儀なくされた企画も生じている。今月28〜27日、自己肯定感を高め、10月以降予定している「みちのく『体験の風をおこそう』」運動推進事業としては、「賢治の学校」や、バレーボールのチームづくりなどがある。

賢治の学校では、花巻市出身の童話作家で詩人の宮沢賢治が散策した場所を訪ねる、「石

同施設では、このほかにも各種イベントを計画している。詳しくはホームページで。問い合わせは電話019-688-4221。

雫石高、全国枠に選出

地域探究
アワード
グループ活動を発表

滝沢

高校生が地
域活動などの
振興機構主催
アワード(国立青少年教育
方ステージは23日、滝沢市

成果を発表する地域探究



全国ステージに進んだ福田愛沙さん(左)ら雫石高のグループ

後の国立岩手山青少年交流の家で開かれた。雫石町の雫石高(小原由紀校長、生徒75人)の1年生らが参加し、総合的な探究の時間で取り組んだ活動を示した。

団体に同校の4グループ、個人に福島県の高校から1人が参加。同校は、町の友好都市・静岡県富士市のお茶の売り上げが減っていることを受け、お茶を取り寄せ「しずくしい軽トラ市」で販売。発表は軽トラ市に向けた新型コロナウイルス対策やマネジメントなどをテーマにした。

お茶と一緒に自分たちで作った砂糖菓子「琥珀糖」を配布した活動を発表した班が全国ステージの代表に選ばれた。リーダーの福田愛沙さんは「緊張して声が小さくなってしまった。全国ではリラックスして臨みたい」と意気込む。

全国ステージ(東京都)は来年2月14日に行われる予定。

令和2年度 みちのく「体験の風をおこそう」運動事業実施状況

1 「体験の風をおこそう」運動を普及・啓発する取組

(1) 北東北3県において体験活動に関わる機関・団体等を対象に、体験活動推進を目的とする「子どもゆめ基金募集説明会」を開催し、活用促進を図った。併せて「体験の風をおこそう」運動の趣旨を説明し、普及に向けた協力を呼びかけることで、民間団体等の理解を深めることができた。また活動対象エリアの社会教育主事会議等において「体験の風をおこそう」運動の趣旨を説明するとともに、推進月間について説明することで、本運動への認識を深めることができた。

① 子どもゆめ基金説明会の開催（3か所）

- ・岩手県盛岡市会場（16名参加） 令和2年10月15日（木）
- ・青森県青森市会場（9名参加） 令和2年10月22日（木）
- ・秋田県秋田市会場（9名参加） 令和2年10月8日（木）

② 各県社会教育主事会議参加

- ・青森県（中止）
- ・岩手県（3回）岩手県社会教育主事等会議
令和2年4月7日（火）、10月28日（水）、令和3年2月16日（水）
- ・秋田県（2回）秋田県生涯学習・社会教育関係職員会議
令和2年4月7日（火）、令和3年2月5日（金）
- ・宮城県（1回）生涯学習・社会教育主管課長等会議
令和2年10月28日（水）

(2) 「体験の風をおこそう」運動推進委員会構成団体の地方組織等の事業に次の事項を依頼し、地域への本運動の普及に努めた。

① 「みちのく『体験の風をおこそう』事業」の冠を付すこと。

② 事業チラシに「体験の風をおこそう」運動のロゴ等を入れること。

2. 子供たちの体験活動の重要性について保護者及び地域等、また、指導者等の理解を促進する取組

(1) PTA 連合会、公民館職員等研修講座、教育振興運動推進研修会等への事務局員の派遣

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、多くの会議、講座、研修会等が中止になったため、2つの研修会でしか広報が行えなかった。実施された研修会には、事務局員が直接出向き、「体験の風をおこそう」運動についての趣旨説明を行うとともに、体験活動の場について情報提供を行うことにより、「体験活動」に対する興味・関心を高め、「体験活動」を身近に感じてもらうことができた。

また、「体験の風をおこそう」幟旗やグッズ等も配布し、体験活動の重要性について直接働きかけることで、体験活動を推進していこうとする機運を高めることができた。さらに、「子どもゆめ基金」の広報を行うことで、子どもゆめ基金についての認知も高めることができた。

- ①滝沢市子ども会育成連合会
期日：令和2年5月10日（日）中止
- ②地域とともにある学校づくりフォーラム・教育振興運動推進研修会（盛岡教育事務所）
期日：令和2年6月7日（日）中止
- ③読書ボランティア研修会（参加者：70名）
期日：令和2年9月30日（水）
- ④「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（中部教育事務所）
期日：令和2年6月22日（月）中止
- ⑤「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（宮古教育事務所）
期日：令和2年6月26日（金）中止
- ⑥「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（沿岸南部教育事務所）
期日：令和2年7月7日（水）中止
- ⑦学校と地域の連携・協働研修会（生涯学習推進センター）
期日：令和2年8月実施予定中止
- ⑧「放課後子ども総合プラン指導者合同研修会②」（生涯学習推進センター）（参加者：36名）
期日：令和2年9月3日（木）
- ⑨「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（県南教育事務所）
期日：令和2年9月1日（火）中止
- ⑩岩手県立生涯学習推進センター一般公開
期日：令和2年11月3日（火）中止
- ⑪盛岡市PTA連合会（理事会）
期日：令和2年12月20日（日）中止
- ⑫秋田県社会教育主事等研修会・北地区社会教育関係職員第2回研修会（秋田県社会教育主事連絡協議会・秋田県北地区社会教育主事協会）
期日：令和3年2月5日（金）中止

（2）保護者及び地域等への理解促進

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、予定していたイベントのうち1つがWeb開催に変更され、2つが中止になった。実施された「滝沢産業まつり」には、事務局員が出向いて、「体験の風をおこそう」運動について趣旨説明を行ったり、創作体験キットを配付したりして、体験活動の重要性や運動への理解促進を図ることができた。

さらに、岩手県内の7社の報道機関に出向き、「体験の風をおこそう」運動について広報することによって、その趣旨について岩手県内全域に理解促進を図ることができた。

- ① いわてまるごと科学館（オンラインでの開催に変更）
- ② 滝沢市産業まつり（参加者：823名）
令和2年10月3日（土）・4日（日）
- ③ 「体験の風」出前創作活動教室 in IBCまつり
令和2年9月12日（土）・13日（日）中止

④ 「体験の風」出前創作活動教室 in 盛農祭
令和2年10月24日(土)・25日(日) 中止

⑤ みちのく「体験の風をおこそう」運動キャラバン隊
(岩手県内7社のテレビ局・ラジオ局・新聞社)
令和2年9月17日(木)・18日(金)

(3) 公立青少年教育施設等の施設事業を利用した普及啓発

公立青少年教育施設等主催の親子や子供たちを対象とした事業に出向き、「体験の風をおこそう」運動についての趣旨説明を行った。

また、みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会で独自に作成した「体験の風をおこそう」クリアファイルやメモ帳を事業参加者等へ配布することで、普及啓発を図った。

これらの取組によって、活動対象エリアの公立青少年教育施設等において、「体験の風をおこそう」運動を共に及していく意識の醸成が図られ、体験活動の裾野を広げることができた。

- ① 青森県公立小川原湖青年の家「友情のつどい～秋～」中止
令和2年11月7日(土)～8日(日)
- ② 青森県立種差少年自然の家「秋を感じて」(参加者:92名)
令和2年10月18日(日)
- ③ 青森県立梵珠少年自然の家「9歳チャレンジキャンプ」(参加者:24名)
令和2年9月19日(土)～21日(月)
- ④ 岩手県立県北青少年の家「親子でアウトドアクッキング」(参加者:29名)
令和2年9月20日(日)
- ⑤ 岩手県立陸中海岸青少年の家「家族ふれあいデイキャンプ in マリンランド陸中」(参加者:36名)
令和2年8月29日(土)
- ⑥ 岩手県立県南青少年の家「親子de手作り クリスマス!」(参加者:88名)
令和2年11月28日(土)
- ⑦ 盛岡市立区界高原少年自然の家「区界土遊塾」(参加者:19名)
令和2年8月29日(土)
- ⑧ 秋田県立大館少年自然の家「アウトドアスクール」(参加者:37名)
令和2年9月5日(土)
- ⑨ 秋田県立岩城少年自然の家「あつまれキッズ!親子で楽しめるもんキャンプ」(参加者:46名)
令和2年10月11日(日)
- ⑩ 秋田市太平山自然学習センター「まんたらめちびっこクリスマス」(参加者:20名)
令和2年12月19日(土)
- ⑪ 松島自然の家「フィッシング入門」(参加者:40名)
令和2年10月24日(土)
- ⑫ 宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター「野鳥の暮らしを探ろう」(参加者:15名)
令和2年11月1日(日)

3. 子供たちに多様な「体験活動」を提供する取組

どの活動もとても好評であり、子供たちは体験活動の楽しさや素晴らしさを実感し、体験活動を継続的にやりたいという意欲を高めることができた。また、保護者については、体験活動の重要性に対する理解を深めることができた。

(1) テンパークファミリーキャンプ

①親子鞍掛山登山（参加者：55名）

期日：令和2年6月6日（土）

本事業は、多様な体験活動を提供することにより、子どもたちは体験活動の楽しさや素晴らしさを実感し、体験活動を継続的にやりたいという意欲を高めていくことをねらいとして実施した。

登山中は、山の木々や草花、昆虫などについて様々な場面で足を止めて、指導員から説明を聞くことができ、参加者はゆっくり自然に親しみながら歩くことができた。登山指導員1名につき、一班あたり10人以下の少人数の班編制で実施したため、参加者同士や指導員の距離感が縮まり、気軽にコミュニケーションをとりながら楽しく登山を行うことができた。

開催するに当たって、新型コロナウイルス感染拡大に係る対応として、密集状態を極力避けるため、開会式以降は解散まで指導員の引率のもと班ごとに活動した。また、熱中症対策の観点から、マスクについては参加者それぞれの判断で着用することとし、職員及び指導員についてもマスクを着用しない場合がある旨を二次案内に記載し、参加者に周知した。これらのことについて、参加者から不満を示す意見はなく、指導員からは「ペース配分や休憩のタイミングを考慮しやすく、スムーズに引率ができた。」「山頂での密集を避けることができた。」という意見が挙げられた。

事業終了後、登山参加者からは「自分たちだけでは絶対に登りきれませんでした。家族で初めての登山。ありがとうございます。」「初参加でしたが、ストレス発散にもなり心身共にリフレッシュすることができました。」「植物のこと、山の歩き方、虫のことなど様々な知識を教えて下さり、最後まで楽しめました。」「小学生のうちに登山をさせたいと思っていた。初めての登山で親子参加ということもあり思い出になった。」との声が寄せられた。

今回の体験活動の機会を提供したことにより、施設の利用と促進を図るとともに、「体験活動を継続的にやりたいという意欲を高めていく」というねらいを達成することができた。

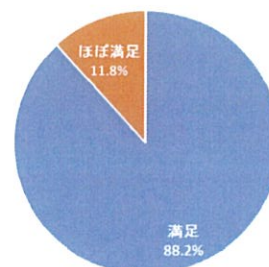


指導員からの植物の特徴や名前の説明



参加者同士の交流

事業全体の満足度



②親子ビギナーズキャンプ（参加者：73名）

期日：令和2年6月27日（土）～28日（日）

本事業は、親子で多様な体験活動を行うことを通して、体験活動の楽しさや素晴らしさ、重要性を実感し、今後も体験活動を継続的に行うきっかけとすることをねらいとして実施した。

本事業のテーマが「親子ビギナーズキャンプ」ということもあり、事業を企画する際のポイントとして、①アウトドアのイメージと結びつきやすい活動を実施する②人によってアウトドアに楽しさを感じるポイントは異なるため、選択活動を実施し、自分の興味・関心に沿って活動できるようにする③活動を通して、体験活動の教育的価値や効果を感じることができる、の3つを設定した。

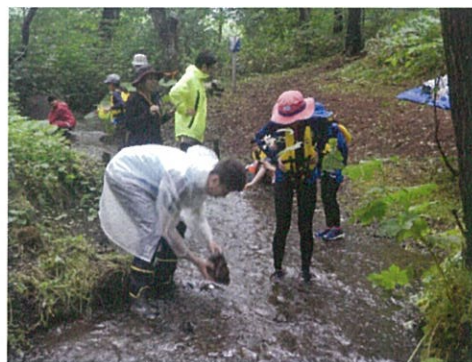
1日目は、最初に家族ごとテント設営を行った。初めてテント設営を行う家族もいたが、「家族だけでもできるんじゃないかと自信がついた」との感想もあり、今後家族でテント泊をするきっかけとなった。選択プログラムでは、「森探検」「川遊び」「火おこし」の3つを実施した。森探検ではサウンドマップ、森のピングオなど、自然物に興味・関心が向くような内容を中心に構成した。川遊びでは、沢の水の冷たさを全身で味わったり生き物を探したりと、自由に遊びを展開できるようにした。火おこしでは、マッチや薪を使わず、キャンプ場周辺の枝や松ぼっくりを材料に、火おこし器を使って火をおこした。大人が簡単に手助けをせず、子供が試行錯誤できることを重要視して活動を実施した。参加者からは「火がなかなか着かなかった分、”またやろう”と次へのやる気につながった」「じっくりと自然と触れ合う貴重な時間が過ごせた」などの感想があった。夜は子育てカフェと絵本の読み聞かせを行った。子育てカフェでは、保護者同士の情報交換を行うとともに、自然体験の教育的意義や子供とのかかわり方について解説を行った。参加者からは「親御さんたちと触れ合い、勉強にもなってよかった」などの感想があった。絵本の読み聞かせでは、選択プログラムの内容と関連する内容の絵本を法人ボランティアが子供に読み聞かせた。

2日目は、朝食でカートンドック作りを行った。手軽にできるキャンプ料理ということもあり、「火の使用も安全でよかった」「自宅でもアレンジしてみたい」との感想があった。テント撤収後、野外炊事でカレー作りを行った。キャンプの定番メニューであり、子供でもできる工程が多いことから、「子供たちも挑戦しながらやっていた」「協力して、子供も率先して参加してくれてよかった」との感想があった。

本事業のアンケートにおいて、「今後家族で自然体験（アウトドア）をしてみようと思いますか」という設問に対し、「思う」「やや思う」の回答の合計が100%であったことから、本事業のねらいは達成されたと考えられる。今後は、アウトドア用の道具の情報提供など、自然体験への敷居の高さや情報不足などを克服し、気軽に自然体験を行うことができるような仕掛けを、別の視点から活動プログラムを検討すると、より内容が充実すると考えられる。



家族ごとにテント設営



川遊び



③親子三ツ石山登山

期日：令和2年9月12日（土）悪天候のため中止

④そうだ！テンパークへ行こう！！（参加者：68名）

期日：令和2年6月29日（土）～30日（日）

本事業は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、例年実施していた「テンパークまつり」の規模を縮小する形で実施した。内容については、過年度と同様に様々な体験活動を行う機会を確保するため、2日間で3回の選択体験活動の時間を設定した。

選択体験活動では12のブースを開設した。創作体験のブースは、草木染や七宝焼きといった交流の家の既存の活動プログラムを外部指導員にご指導いただいた。これに加え、オリジナルバターナイフ作りやバードコールといった木工体験も実施した。参加者からは、「きれいな小物ができて子どもたちも喜んでいます」、「家に帰ってからも楽しむことができそうです」といった感想が寄せられた。また、焼き板製作では火起こしから体験の内容に組み込み、自ら起こした火で板を炙るようにした。子供にとって火を起こす作業は若干難しかったものの、親子で工夫しながら取り組む姿が見られた。屋外では、アウトドアクッキングでダッチオーブンを用いたパン作り、森探検、ネイチャーゲームを行った。アウトドアクッキングでは、初めてダッチオーブンを使ったり、手作りパンを作ったりする家族が多く、きれいに焼きあがったパンに感動する姿が多く見られた。ネイチャーゲームは岩手県シェアリングネイチャー協会を講師に招き、ご指導をいただいた。特別な道具がなくとも自然の面白さや不思議さに気づくことができる内容であった。夜はNPO法人イーハトーブ宇宙実践センターの会員のみなさまを講師にお招きし、星空観察を実施した。残念ながら悪天候のため屋内での実施となったが、mitaka等を用いながら、天体に関する解説や秋の星座の紹介をしていただいた。小学校低学年以下の子供たちには若干難しい内容ではあったが、今後家族で星を眺めたり、天体や星座について学んだりするきっかけとなった。

新型コロナウイルス感染症の対策としては、手指の消毒等の徹底に加え、食事・入浴を宿泊棟ごとに時間をずらして実施して3つの密を避けるなどの取り組みを行った。また、選択体験活動についても、申込時に第1希望から第5希望までを調査し、ブースごとの参加者数も過多にならないように割り振りを行った。参加者からも「コロナ対策が工夫されていた」「コロナ対策が行き届いていた」等の感想があり、参加者も安心して活動できていたことがうかがえた。

本年度は従来とは形を変えた開催とはなったものの、パン作りやバードコールなど、今まで実施していなかった活動プログラムを実施するなど、体験活動の普及・啓発という観点からは意義のある事業になったと考えられる。今後はさらに自然体験活動を行うブース等を開発し、より多様な体験活動を提供できる体制を整えることで、その意義はより深まると考えられる。

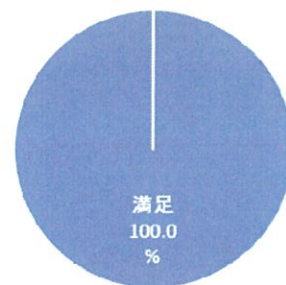


ダッチオーブンでのパン作



火起こし体験

事業全体の満足度



⑤親子ウィンターキャンプ

於：岩手山青少年交流の家（参加者：）

期日：令和3年1月30日（土）～31日（日）

本事業は、親子で様々な体験活動を行うことをとおして体験活動の楽しさや素晴らしさを実感し、今後も体験活動を継続的にやりたいという意欲を高めること、また、体験活動をおして親同士や子供同士の横のつながりを作るきっかけとすることをねらいとして実施した。

選択体験活動では、合計4つの活動を行った。作って食べる体験活動として「段ボール燻製器作り」、屋内の体験活動として「スノードーム作り」、屋外の体験活動として「かまくら作り」、「冬の森探検」である。

「段ボール燻製器作り」は、家にある身近なものを使ってキャンプに使える料理ができること、また、家でも簡単にキャンプ料理ができることを知ってもらいたいという思いで実施した。参加者からは、「おいしくできて良かったです。家でもやってみたいです。」「自分たちが作ったもので、味がかわるのを体験できて楽しめた。」といった感想が寄せられた。段ボールに、絵を描くなどしてオリジナルの燻製器を作り、家族みんなで楽しんでいる様子が見られた。

「スノードーム作り」では、瓶の中の飾りに松ぼっくりやどんぐりなどの自然物を使用して作成した。スノードームの中に入れる水に色を付けたり、瓶の外側にも装飾をしたりして創作活動を楽しんでいた。「親子とも夢中で取り組み楽しめました。」など、親子ともに楽しんでいる姿が見られた。子供よりも親の方がスノードーム作りに熱中している姿も見られた。スノードームに自然物を入れるということに驚く参加者も見られた。

「かまくら作り」では、食堂前広場を使い、1家族1基作った。親子2人の参加者や、母親と子供たちのみ等、人手が必要な家族には、ボランティアが補助をして実施した。今回、食堂を休憩スペースとして選択体験活動中に開放した。かまくら作りや外にいるのに疲れた幼児が食堂にいて保護者とともにゆったりと過ごす姿も見られた。

「冬の森探検」では、スノーシューを履き、曲り家周辺を散策した。新しい活動プログラムであるテンパークスタンプラリーも併せて実施した。参加者からは「新雪が気持ちよかったです。」「どんどん楽しくなりあつという間でした。」との声が寄せられた。

1日目の夜の活動は、親子で別々の活動を行った。保護者は子育てカフェ、小学生の子供たちは雪上キャンプファイヤーを行った。参加者からの感想は、子育てカフェでは、「コミュニケーションが取れて良かったです。」「情報交換が良かった。」との声が寄せられた。雪上キャンプファイヤーでは、「雪の上で歌ったり、走ったりして楽しかったです。」との声が寄せられた。また、「子育てカフェもよかったが、親もキャンプファイヤーに参加したかった」との声もあり、保護者の中でもキャンプファイヤー等、日常的に体験できないことを行いたいと思う方がいることが分かった。

今回体験活動を提供したことにより、興味関心が高まり家庭でも体験活動を行いたいという感想を抱いた家族もいたことから、今後も親子で自然体験活動を行いたいという意欲を高めるというねらいを達成することができた。開会行事後にグラウンドに出てみんなでゲームに挑戦し、親子や家族間で交流を深めた。ゲームを楽しんだ後は、「雪上宝探し大会」を行った。参加した親子全員で雪の中に隠されたカラーボールを探し出し、ボールに書かれた番号のクイズに挑戦した。夜の時間は、ホールで事業当日の星空の様子を映像で紹介した後、屋外に出て美しくにぎやかな冬の星空観察を楽しんだ。二日目は屋内外で体験活動を行った。屋外には、スノーシュー体験、スノーチューブ・そり遊び、屋内には創作体験活動（オリジナルプラネタリウム作り、プラ板工作、缶バッジ作り）の場を設定し、子供と一緒に大

人も楽しみながら様々な体験をする機会を提供した。参加した家族は、体験の重要性について自らの体験をもって実感することができた。

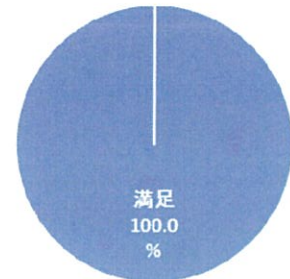


段ボール燻製器作り



かまくら作り

事業全体の満足度



(2) 令和2年度 岡崎建設Owls プレゼンツ「新たな発見!!チームづくり 基本のき」
期日：令和2年11月7日(土)～8日(土)(48人)

岡崎建設Owlsの選手の皆さんと共に、岩手山青少年交流の家体育館と滝沢市北部コミュニティセンターを会場にバレーボールスポーツ交流事業を行った。バレーボールの直接体験の重要性や交流の大切さを広く普及啓発するとともに「体験の風をおこそう」運動に対する気運を高めることをねらいとして実施した。

1年生18名、2年生23名、3年生7名、計48名の参加者で活動を行った。個人の課題や身に付けたいスキルの調査結果を基に、6チーム編成で2日間活動を共にした。岡崎建設Owlsの選手が2名ずつコーチとして各チームに付き、参加者の実態に合わせて指導した。事前の打ち合わせにおいて、岡崎建設Owlsの選手に本事業の目標について周知を図り、目的を持った指導を展開できるようにした。

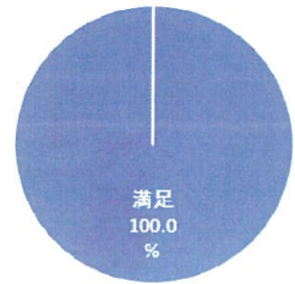
参加者からは「最初は不安だったが、ミーティングやお風呂などでチームの絆が高まり、2日目は良い試合ができたので良かった」「コミュニケーション能力を高めるとい目標に向かって、仲を深め、楽しみながら目標達成できた」という感想が寄せられた。このように慣れない環境の中でも、他とコミュニケーションを取り適応できたことは、参加者の自信となり今後の意欲に繋がる活動となった。

保護者や指導者からも「コロナ禍でも貴重な経験ができたことに感謝しています」「コミュニケーションをとることや自分を表現することが苦手な子ども達なので、チームをバラバラにして新チームの中で活動できたことは良い体験になりました」「アイスブレイクや試合にOwlsの選手が入り、声の掛け方、盛り上げ方、集中力、取り組む姿勢、全てが見本となり取り組めたことは幸せなことだと思った」とうれしい感想をいただいた。

今回の体験活動を提供したことにより、円滑なコミュニケーションは、仲間作りやチーム作り、人間作りに繋がる要素であることを再確認できた。また、施設の理解と利用の促進を図るとともに、体験から学ぶことの大切さや体験活動を継続的にやりたいという意欲を高めていくというねらいを達成することができた。



事業全体の満足度



(3) スキー・スノーボード体験 in テンパーク

期日：A日程：令和3年1月16日（土）～17日（日）（参加家族：10家族24名）

B日程：令和3年1月23日（土）～24日（日）（参加者：64名）

本事業は、スキー・スノーボード体験を通して、冬に自然体験活動を行う楽しさを実感するとともに、自然に親しむ心を育むことで、今後も継続的に自然体験活動を行うきっかけとすることを目的に、A日程は家族対象、B日程は小学校高学年の児童を対象として開催した。

A日程では、今後家族でスキー・スノーボードに出かける契機とするため、家族ごとにインストラクターを1名配置し、レッスンをを行った。その際、通常のレッスンであれば技術の習得に重きが置かれることになるが、本事業では事業目的を鑑み、家族内で習熟度に違いがある場合でも楽しくスキー・スノーボードができるためのヒントを得たり、保護者が子供にスキー・スノーボードをどのように教えたらいいのかを知る機会になったりすることをねらったレッスンとなった。1日目は技術指導に偏ってしまう場面も見られ、インストラクターとの打ち合わせの中でレッスン内容に関して修正を図る必要があったものの、2日目には事業目的に沿ったレッスンが展開されるようになった。参加者アンケートでも、「今後家族でスキー・スノボに行こうと思う」という設問に対し、全員が「そう思う」と回答したことからも、レッスン内容が2日目に改善されていたことがうかがえる。また、夜には保護者に対し「子育てカフェ」の中で自然体験活動の意義について説明したことで、子供にとってスキー・スノーボードを含めた自然体験活動の重要性を啓発できたと考えられる。参加者アンケートでも、「スキー・スノボ以外の自然体験活動もしてみたいと思う」という設問に対し、全員が「そう思う」と回答したことからも、今後も継続的に自然体験活動を行うきっかけとするという事業目的は達成できたと考える。

B日程では、子供のみを対象に、日中はスキー・スノーボードレッスン、夜はレクリエーションを行った。B日程においてもスキー・スノーボードの技術習得に終始することがないように、レッスン中や夜のレクリエーションにおいて子供同士の交流を図るなど、自然体験活動の持つ魅力を感じることができるようにした。参加者アンケートでも、「これからも、スキー・スノーボードをしたいと思う。」という設問に対し、64名中61名が「そう思う」、3名が「ややそう思う」と回答したことからも、事業目的は概ね達成できたと考える。

スキー・スノーボード事業は技術習得に重きが置かれてしまう傾向があるが、本事業では事業目的を明確にした上で事業内容を構成したため、事業目的と事業内容の乖離が起きず、当初の目的が達成できたと考えられる。次年度は、対象について「保護者が初心者」、「子供が初めてスキー・スノーボードをする」など、事業目的により適した対象となるように検討し、さらに事業の効果が高まるようにする必要がある。



親子で初めてのスノーボードに挑戦



自然体験活動の意義や重要性を知ることのできる機会となった

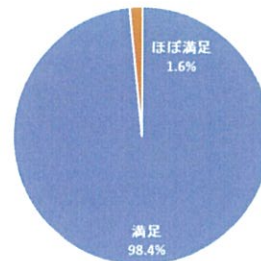


スキー・スノーボードを通して知り合った仲間たち

A 日程 事業全体の満足度



B 日程 事業全体の満足度



4. 「体験の風をおこそう」運動推進月間における「事業エントリー」と「子ども体験遊びリンピック」の実施

活動対象エリアである北東北3県と宮城県の教育委員会、公民館等、公立青少年施設、地域の子ども会や課後児童クラブなど、990件の関係機関・団体に働きかけた。「体験の風をおこそう推進月間事業」では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、全国的に実施が難しい状況の中、北東北3県と宮城県で42団体のエントリーがあった。また、子ども体験遊びリンピックについては、昨年度と同程度の52団体ものエントリーが得られた。

北東北3県と宮城県の「体験の風をおこそう」運動推進月間における「事業エントリー団体数」と「子ども体験遊びリンピックエントリー数」の推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業エントリー団体数	183	161	114	42
全国	736	602	604	276
子ども体験遊びリンピックエントリー数	84	69	55	52
全国	517	438	479	269